



海峡の英知。未来へそして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2018年7月1日 第85号

発行：下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/

平成30年度 第57回下関市立大学入学式

入学式を開催して

学部長 高橋 和幸

4月4日(水)に、第57回入学式が本学体育館で開催されました。厳しい寒さに耐え抜いた桜が見事に咲き誇ったキャンパスに、本年度は学部学生として経済学科218名、国際商学科233名、公共マネジメント学科62名の合計513名(うち留学生12名)、編入学生21名および大学院生3名の総数537名の新入生を迎えました。

式は、放送部の高橋勇之介君(経済学科3年)と小西杏さん(経済学科2年)の司会で進められ、学長告辞では、川波洋一学長から学生時代においては「友人との出会い」、「師との出会い」そして「書物との出会い」の3つの出会いを大切に、また大学院では未踏の領域、未解決の問題にチャレンジする精神を持ち続けることで、大学生活が実り多く豊かなものになることを祈念するメッセージが新入生へ送られました。

続いて、荻野喜弘理事長、前田晋太郎市長(代読:三木潤一副市長)、亀田博下関市議会副議長、森岡智之後援会長から祝辞が述べられた後、国際商学科の磯村弥大さんと大学院経済学研究科の井上仙子さんがそれぞれ新入生代表の宣誓を行いました。

式の最後には、学生歌「青潮ゆたかに」を新入生全員で合唱し、これからはじまる学生生活への希望と期待をあらたにし、また列席された多くの保護者の皆様や来賓の方々、そして在學生や教職員に祝福される晴れやかな式となりました。



挑戦する4年間・新入生代表宣誓挨拶

国際商学科1年 磯村 弥大
(山口県立下関中等教育学校出身)

4月4日(水)に挙行された第57回下関市立大学入学式で、私は新入生を代表して宣誓の挨拶を務めました。このような式で挨拶をする機会を得られたことに感謝し、これから始まる4年間で充実したものとなるよう頑張りたいと思います。

私が下関市立大学を志望したのは、高校2年生の時に下関市立大学と連携して卒業研究に取り組んだことが理由です。実際にゼミに参加し、このような偉大な教授陣の中で学問を続けていくことができるのであれば、私にとって非常に恵まれた環境であると感じました。

私は在学中の4年間で様々な経験をしたいと考えています。1つ目は海外留学に行くことです。大学では、高校の時と比べ夏期や春期の休暇が長いので、休暇を利用して海外に行き、語学力を向上させると同時に海外での生活を通じて多様な文化に触れたいと思います。

そして2つ目は、部活動やサークル活動に取り組むことです。部活動やサークル活動から得られる礼儀や作法を学び、様々な方とコミュニケーションを行い、人間力を高めたいと思います。

最後に3つ目は、積極的に資格取得に挑戦することです。卒業単位に留まらず、簿記検定試験や英語検定試験(TOEIC)等の資格の取得も目指したいです。

最後になりましたが、母校の先生方の手厚いサポートや家族の支えにより今日の私があります。そのような方々に感謝して、これからの4年間の日々を送っていききたいと思います。



新任挨拶

経済学の歴史から 現代社会を考える

准教授 荒井 知行
(経済学史、社会思想史)



4月に就任致しました荒井知行と申します。下関は、自然豊かで歴史の厚みと落ち着いた雰囲気があり、大いに魅惑されています。人々も親切かつ温厚で、素敵な場所であると日々実感しています。

私の専門は、経済学史です。経済学の創始者のアダム・スミス以降のイギリス経済学の展開・変容について研究しています。このことは、今日のスコットランドとイングランドの違いも含めたそれぞれの福祉社会の歴史的形成につながる意義を有すると見ています。それは、今後の日本社会のビジョンを考えるうえでも意味をもつものと思われます。担当科目においても、時間はかかるかもしれませんが、経済学の歴史の学びが今日の経済学や経済・社会にいかに関係するのかについて、考えさせるような講義を行いたいと思っています。教育面でも研究面でも途上の域にすぎませんので、長い目で見守って下されば大変有難く存じます。未熟な者ではございますが、何卒宜しくお願い致します。

世界にその名いと高き、 昔しのぶもおもしろや

講師 三科 仁伸
(日本経済史、経営史)



本年度より、国際商学科に着任いたしました三科仁伸と申します。本学では、経営史や商業史、日本経済史といった歴史系の専門科目を担当いたします。これまで、鉄道事業や電力事業、金融事業を対象として、日本経済の歴史的展開を、地方企業家やミドル・マネジメントなどの活動を中心に分析してまいりました。近年では、保険事業や食品事業(醤油醸造業など)にも対象を拡大しております。ここ下関は、「鉄道唱歌 山陽九州編」の三十番に、「世界にその名いと高き、馬関条約結びたる、春帆楼の跡といて、昔しのぶもおもしろや」と歌われている場所でもあります。「世界にその名いと高き」下関で、教員生活の第一歩を踏み出せたことを大変うれしく感じております。今回のご縁を大切にしつつ、まずは、現在行っている地域振興に関する共同研究の中で、下関を含めた山陰山陽地方を扱いながら、「昔しのぶもおもしろや」な研究活動を進めていきたいと考えております。

経済政策は多様な 専門知識でできている

准教授 横山 寛和
(経済政策、公共経済学)



本年度4月より着任いたしました横山寛和です。経済政策、公共経済学および演習を担当します。

専門は財政学で、主に社会保障制度の1つであり、その中でも社会保険に分類される公的年金を研究してきました。公的年金

研究は社会政策、保険制度、財政制度・組織、ミクロ経済学、マクロ経済学、法律および歴史などの専門知識で成り立っています。それ以外の経済政策も、ミクロ経済学やマクロ経済学の知識のみならず、各政策分野ならではの専門知識で成り立っています。

経済政策は自分とは無関係と思われがちですが、少し視野を広げると、様々な政策が様々なルートを通じて私たちの生活に影響を及ぼしていることがわかります。本学は多くの政策分野の授業が開講されており、高度で、かつ、複眼的な知見を得られる好機が多くあります。私の経済政策の授業がその橋渡しとなれば幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

比較文学研究と日本語教育

特任教員 三成 清香
(日本語教育)



4月に着任しました三成清香と申します。専門は文学で、ラファディオ・ハーン(小泉八雲)の研究を行っています。特にハーンの再話作品に興味を持ち、ハーンが日本の物語をどのように描きなおしたのかについて、原話と比較しながら分析しています。

教育の面では、文学とは別に日本語教育に携わってきました。本学でも日本語教育の授業を担当しています。これまで色々な場所で色々な立場にある方々に日本語を教えてきましたが、新しい出会いのたびに、教員である私の方が多くのことを学ばせてもらっています。ゆくゆくは自分の専門の文学と日本語教育を関連付けた新たな研究にも挑戦したいと思っています。

私もハーン同様、色々な場所を転々とする人生を送っていますが、この度下関市という新たな場所で奉職することとなり、期待に胸を膨らませています。学生の皆さんと地域の皆様から多くのことを学ばせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

日中文化の違いからの 中国語授業

特任教員 宋 馨華
(日本語教育、中国語教育)



初めまして、中国の青島大学より参りました宋馨華と申します。これから1年間にわたり中国語の授業を担当致します。

この大学に来る前まで、青島大学で初級日本語の授業を担当しておりました。学生達に日本語を深く理解してもらうため日本の文化や風俗習慣を授業に取り入れてきました。授業の他に、国際シンポジウム等に積極的に参加し、論文を発表したり、授業活動の最新の情報及びテクニック等を常に吸収したりしてきました。また授業改革実証研究のような研究項目も引き受けておりました。教学研究論文はすでに10本余り正式に発表しております。

今回の仕事を通じて両国の言語と文化に、より一層の理解が深まると思っています。これから今まで積み上げてきた知識や経験を十分に生かし、様々なアプローチを試み、日中文化の違い視点からの内容豊かな授業をしたいと思っています。皆様のご協力のもと、楽しく面白い中国語の世界になると信じています。どうぞよろしくお願い致します。

下関市立大学 News & Topics

特待生として表彰されました

国際商学科4年 平岡 陽香
(下関商業高等学校出身)

特待生の表彰を受けることは、大学入学当初からの目標でした。そのため、授業の後には復習をしたり、試験の3週間前から勉強を始めるようにしたり、自分なりに努力を重ねてきました。そして、2年生に上がる時、初めて特待生の表彰を受けました。自分の努力が認められた気がして、とても嬉しかったのを今でも覚えています。それからは、毎年特待生の表彰を受けることが目標になりました。時には勉強につまずき、心が折れそうになることもありましたが、そんな不安な気持ちを支えてくれたのは「特待生の表彰を受けた」という自信でした。「あの時頑張れたんだから、今も頑張れるはず」と、一つひとつ課題を乗り越えてきました。その結果、3年連続で特待生の表彰を受けることができ、今は嬉しさとほっとした気持ちでいっぱいです。特待生の表彰を受けることを目標に過ごした大学生活は、とても充実したものとなりました。来年には社会人になりますが、新たな環境でもこの経験を生かし、より一層努力を重ねていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



学生会執行部の活動について

第14代学生会長 国際商学科4年 今井 皓基
(兵庫県立川西緑台高等学校)

学生会執行部とは、体育会、文化会及び大学祭実行委員からなり、学生の諸活動を支援する学生団体です。定期的に学生総会を開催し、本学の学生の皆さんがより良い環境で大学生活を送れるよう、多くの意見に耳を傾け、学生代表として大学側と交渉を行っています。

4月には新入生歓迎パンフレットの配布や歓迎行事としてサークルセッションの運営等を行い、新入生に本学に馴染んで頂けるよう努めています。また3月には卒業パーティーを主催し、卒業生同士や先生との最後の交流の場として役立てています。さらに学内で献血を行う場合には多くの方にご協力頂けるように呼び掛けを行っています。

本年度は、昨年以上に各組織との連携強化を図っています。具体的な施策としては共有スペースの利用システムの改善を行いました。また今後は、部費・補助金システムの見直し、練習環境改善に注力していきたいです。常に広い視点を持ち、本学の学生の皆さんの活動を支えていく為、活発に活動を行っていきたく考えています。



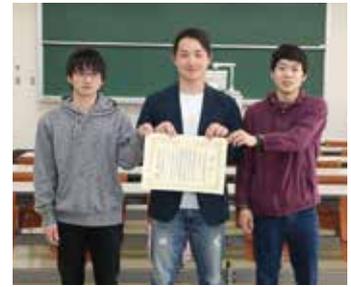
懸賞論文の執筆を終えて

経済学科4年 小林 祐太
(兵庫県立三木高等学校出身)

商工総研主催の第31回中小企業懸賞論文において、山口俊貴・藤井聖大・小林祐太の連名で執筆した論文「地方銀行による農業参入の意義と経営支援の方法について」が金融部門で準賞に選ばれました。

この論文では、衰退の一途をたどる農業において、地方銀行が農業法人へ経営支援を行うには、地方銀行自らが農業に関わり、ビジネスモデルを確立することが重要だと論じました。事例として、鹿児島銀行による農業法人設立を取り上げ、それを基に従来から行われてきた財務的経営支援に加えて、農業参入を検討する法人と農家とのマッチングや、非財務的支援も行うことが大切だと分析しました。

論文執筆にあたり、テーマや方向性を決める際に試行錯誤しましたが、グループで協力し、より良く、他にないものを作成しようという意識し調査、分析、執筆しました。今回の受賞は、私たちが所属する森祐司ゼミでの森先生からの熱心なご指導、またゼミのメンバーから頂いたコメントやその他協力いただいた方のお陰だと感じしており、心から感謝しています。



私のゼミ

連載企画

中嶋ゼミ(レジャー・スポーツ産業論)2018年度再スタート

教授 中嶋 健

2004年度からはじまった中嶋ゼミ(レジャー・スポーツ産業論)は、2013年度より5年間休止していましたが、新カリキュラム「専門特講(スポーツ産業論)」を開講すると同時に今年度より再スタートしました。

19世紀、主にイギリスを中心に誕生した近代スポーツは、地球規模で普及、進展し、現代の経済、政治、社会に密接な文化として存在しています。また「文明化」の過程で誕生したレジャーもそうです。レジャーやスポーツは、いわば気晴らしの娯楽ですが、その発生の歴史と現在は、すぐれた知的探求の対象です。

ゼミ生達は、スポーツとレジャーの社会科学分野の諸研究の理解と批判的考察によって、彼らの知的好奇心を膨張させ、現代社会に対する深奥な問題意識を持つことになると思います。

また、座学だけでなく、現代社会におけるレジャーとスポーツの様々な表象を経験する活動も実施し、質の高い卒業研究の完成をゼミ生同士の議論と努力によって目指します。

これまでのゼミ活動の詳細は、下関市立大学レジャー・スポーツ産業論ゼミHP(<https://www4.hp-ez.com/hp/scusli2004/page1>)をご覧ください。



国際交流

しものせき海峡まつりに参加して

ユルドウルム・メルヴェ
(トルコ・科目等履修生 (外国人留学生))

日本の留学生活で、一番経験してみたかったのは着物を着ることでした。日本では独自の文化や習慣が守られていて、現在も色々な祭りが行われています。下関市では「しものせき海峡まつり」というものがあります。海峡まつりの行事の一部である「安徳帝正装参拝」は、私にとって着物を着るとも良い機会でした。一見、着物はとても綺麗なのですが着てみると、とても着づかったです。着るのに時間がかかり、息をするのも難しかったです。しかし、鏡を見るととても綺麗で、着る価値があったなと思いました。下関の大学に通う留学生と一緒に儀式に参加し、観客に注目されました。大雨でしたが、予定通り祭りが行われ無事終えました。私にとって着物を着る経験はとても価値のあるものでしたので、日本を観光に来たみんなに経験して欲しいです。



下関探検・防災ツアーに参加して

国際商学科3年 畠山 智
(済美高等学校出身)

4月5日(木)に行われた下関探検・防災ツアーには、新入留学生と留学生チューターが参加しました。前々日に行われたバスの乗り方教室で学んだことを実践しながらバスに乗り込み、消防防災学習館「火消鯨」に向かいました。移動中に下関市役所や唐戸地区の説明を受けました。

消防防災学習館では、地震がどのようなものなのか、どのような備えをすれば良いかなどをまとめた映像を見て学習したり、消火体験を行ったりしました。また、火事の際はどのように逃げれば良いのか、救急処置はどのように行えば良いのかなどを体験しました。

今回の下関探検・防災ツアーを通して、自然災害の怖さや対策、救急処置について知ることが出来ました。特に日本は地震が他の国と比べて多いので、地震の備えについて知ってもらうことが大切です。この防災ツアーは新入留学生にこのような事を知ってもらう良い機会になったと思います。また、この下関探検・防災ツアーを通して新入留学生とコミュニケーションを取り、下関を紹介することができ、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。



多文化な留学生活を送って

アレクス・クワハ
(ドイツ・ルードヴィヒスハーフェン経済大学交換留学生)

今回はじめて来日し、母国とは違う日本の文化や生活様式について体験しました。

下関市立大学には様々な国の留学生がいて、日本人だけでなく他の国の方と接する機会もあり、それまではあまり知らなかった中国や韓国、タイ、トルコなどのことについても、それぞれの国の方々と友だちになり多くのことを教わりました。

学内の国際交流イベント「日本にいながら世界を知ろう!!」で、日本の学生や他の留学生に私の母国について発表する機会をいただきました。ドイツの美しい歴史的な場所を紹介し、文化や教育システムなどについても話しました。また、ドイツ語の話し方に興味を持ってくれたようでした。プレゼンテーションが終わった後に学生が近づいてきて、「楽しかった!」と言ってくれた時は、プレゼンテーションが受け入れられたのだと思います。とても嬉しかったです。

ドイツに帰国したら、今度は日本で作った思い出をドイツのみんなに伝えたいです。



みんなで取り組み、地球を守りましょう

大学院経済研究科1年 侯 珍麗
(中国・青島大学出身)

私たち留学生は、ゴミ問題を理解するため、4月4日(水)に環境みらい館を見学しました。

ゴミ問題というと最近の問題と思われがちですが、実は日本のゴミ問題は江戸時代から始まっていました。1600年頃、江戸の町では人口が急増し、毎日大量のゴミを川や溝に捨てるようになったのです。それにより、幕府がゴミ埋立地の設置などの対策を取りました。現在に於いてもゴミ問題は深刻化し、環境問題の一つになっています。

環境みらい館では、まずゴミの処理設備や作業の流れなどを紹介するビデオを見て、その後、みらい館のスタッフの指導で実際にゴミの分類をしました。今まで気付かない所や分からない所を色々教えてくださり勉強になりました。そして、リサイクル学習ゾーンの紙すき工房で牛乳パックを使い、葉書を作りました。続いて、ゴミ処理施設の中央制御室や作業の流れも見学しました。みらい館のゴミ減量化と資源化への取り組みに感心した一方、私達はどうするべきかという問題を真剣に考えなければなりません。ゴミをより少なく、より有効に再利用するために、まずは毎日のゴミ分類を徹底すべきではないかと思います。



国際交流

路線バスの乗り方教室に参加しました ～もっと下関の市街を楽しもう～

趙 超

(中国・科目等履修生(外国人留学生))

4月3日(火)に、入学したばかりの留学生、留学生チューターたちと一緒に路線バスの乗り方教室に参加しました。出発する前、サンデン交通の職員の方から、バスの乗り方やバスカードの買い方、乗車と下車の仕方などをしっかりと習いました。そして、後日、実際にバスに乗り、大学から海響館、消防防災学習館、唐戸市場、シーモールなど経由して、下関の市街を満喫しました。

日本の乗車マナーは非常に素晴らしいです。バスはすごく綺麗で、みんな静かに乗ります。停車する前、運転手さんは「バスが止まってから、席を立ってください」とアナウンスします。とても心温かい言葉で、慌てて事前に下車口に立っていないくても大丈夫ですから、すごく感激します。

下関市は歴史があふれている町で、中国との縁も深いです。124年前、日清戦争が起こって、下関市で下関条約が結ばれました。バスの中で、静かで美しい市街を見て、二度と戦争が起こらないようにと思いました。



留学生歓迎会を終えて

国際交流会ともだち部長 経済学科3年 齋藤 菜々子
(佐賀県立佐賀西高等学校出身)

4月26日(木)に、国際交流会ともだち主催の留学生歓迎会を開催しました。

今回は学生同士が主となって交流することを目的とし、例年とは違った形での開催となったため少々戸惑うところはありましたが、特に大きな問題もなく留学生歓迎会を終えることができました。書道愛好会の皆さんによるクイズゲームや、日本のことわざカルタ、二人羽織などの日本の伝統的な遊びを留学生とともに楽しみました。また、オードブルやお菓子を囲みながら談笑する時間も設け、終始明るく、にぎやかな雰囲気での交流ができました。今回は新しい試みということもあり、学生のみでの開催となりましたが、今後さらに発展させていきたいと考えています。

私たち国際交流会ともだちは、今回の留学生歓迎会の他にも留学生や外部の方と接する機会の多いサークルです。ご縁がありこの下関市立大学に来られた留学生の方に「留学先がこの大学でよかった」と思っただけのようにこれからも尽力していきたいと思っています。



カナダの協定校・アルゴマ大学職員の方の来学

准教授 クリステン・サリバン

3月26日(月)に、アルゴマ大学(カナダ)の国際交流担当者である Eunjung Riaukaさんがはじめて本学に来られて、本学とアルゴマ大学との今後の交流について有意義な話し合いをすることができました。

本学とアルゴマ大学とは2015年に学生の派遣留学に関する協定を締結し、その翌年から学生の派遣を開始しました。今年度中に留学を開始する学生を含めると、これまで合計10名の学生を派遣したことになります。派遣留学以外の交流としては、2015年度の外国研修(英語)をアルゴマ大学の附属英語学校で実施したほか、毎年、長期休暇に個人として附属英語学校で短期留学する学生もいます。

アルゴマ大学はオンタリオ州のスーセントマリー市にある4年制総合大学です。少人数教育に力を入れており、1,600人の在学学生に対して60名の専任教員がいます(2018年現在)。スーセントマリー市は五大湖の中心に位置する自然豊かな都市で、大学のキャンパスはアメリカとの国境から1キロしか離れていません。海外留学先として大変良い環境をもつアルゴマ大学と、今後も豊かな交流が続くことを願っています。



青島市青年訪日代表団の来訪について

准教授 菅 正史

3月14日(水)に、下関市と友好都市協定を締結している青島市の青年訪日代表団が、本学に来訪されました。

今回の訪問は、外務省の「日中植林・植樹国際連帯事業」の一環として行われたものです。この事業は、日本での植栽活動などを通して、環境と防災への理解を深め、日中友好を促進すること等を目的としています。その一環として、40歳以下の約30名からなる青島市の代表団が、下関で植樹活動や環境・防災に関する視察等を行うことになり、訪問先の一つに本学が選ばれました。

当日は、川波学長、高橋学部長の挨拶の後、私から下関における環境保全と観光振興の両立について講義を行いました。具体的には、角島大橋の自然環境に配慮した設計と、それが観光地化につながった経緯、現在の状況などについて、豊北の美しい風景を映しながら紹介しました。講義後は活発な質問をいただき、2時間という短い時間でしたが、充実した交流となったと思います。

翌2019年は、下関市・青島市の友好都市協定締結40周年にあたります。今回の交流事業が、両市のさらなる友好関係の一助となることを願います。



下関市立大学 News & Topics

第53回卒業証書・学位記授与式を開催しました

3月25日(日)に、本学体育館において、第53回卒業証書・学位記授与式を挙行いたしました。経済学科213名、国際商学科225名、公共マネジメント学科81名、大学院生3名の合計522名が本学を巣立っていきました。

学長は、告辞の中で、「皆さんは、これまでの勉学において蓄積した知識をさらに深め、磨きをかけ、これからの激動の時代を生き抜く知恵と力を身に着けていただきたいと思います。」と述べました。また、卒業生を代表して経済学科岡美佑さんは、「私は大学4年間で勉学はもちろんのこと、ゼミやサークル活動を通じて、お互いに支えあい、協力すれば、1人ではできないこともできるのだ、ということ学びました。これから私たちは、下関市立大学の卒業生として、責任と誇りを持って未来へ羽ばたいていきます。」と謝辞を述べました。



卒論Pick Up・優秀赤馬賞を受賞して

(広島県北広島町におけるスキー観光の衰退と持続的発展への取り組み)

国際商学科2018年卒業 新田 真琴
(広島県立加計高等学校芸北分校出身)

私は卒業論文で、スキー観光の衰退について研究しました。私は広島県北広島町で育ったため、スキー場の廃業といったスキー観光の衰退を目の当たりにしてきました。しかし、それは北広島町だけの問題ではなく、全国的な問題であることを知り、この問題について深く考えることが地元の将来を考えることに繋がると思い、卒業論文のテーマに選びました。

苦労したことは、廃業したスキー場の情報収集です。存続しているスキー場とは違い、スキー場規模といった情報をなかなか得ることができなかったため、インターネットアーカイブを用いたり、町役場への聞き取りを行ったりして地道に情報を集め、論文内の表を作成しました。

このテーマを選び研究したことで、スキー観光の衰退過程や現状について深く知ることができただけでなく、衰退に対する工夫や努力を知ることができました。

論文を執筆するにあたり、スキー場関係者、町役場、指導教員など多くの方にご協力いただき、心から感謝しております。



国内研修

教授 難波 利光

2017年10月から2018年3月末まで、京都大学大学院経済学研究科で地方自治体の雇用・就労施策の理論構築のための研究を行いました。

研究内容は、超人口減少、超少子高齢状態が進み、労働人口の減少が問題視されている中で、高齢者を社会が弱者的扱いにせず、社会を支える人材として活躍する社会を作るのかという高齢者雇用施策に着目した課題に取り組みました。この研究では、博士論文の成果から得られた日常生活や社会生活など基礎的な生活に踏み込んだ支援を重視することが地域雇用を促進させることにつながるという視点により進めることができました。高齢者のみならず、全員参加型社会の中で、あらゆるタイプの就労を促進するための要素が、これらの研究結果に帰着し新たな雇用のあり方についての理論構築が可能になると思われます。

京都大学は、多くの自然にあふれ、多くの文化財に囲まれており、自由な学ぶ校風は、思考を深めるためには最高の研究環境でした。また、京都という生活空間を実感することができました。



自著を語る

連載企画

進化する企業城下町
—進化経済地理学からのアプローチ—

准教授 外柮保 大介

この度、単著『進化する企業城下町—進化経済地理学からのアプローチ—』を古今書院より上梓しました。博士論文を基に大幅に加筆・修正したものであり、刊行にあたって、2017年度に日本地理学会の出版助成に採択されました。

本書は、2000年代半ば以降、欧米で活況を呈している進化経済地理学の理論を、わが国で初めて本格的に導入した研究書です。立地する大企業が地域に圧倒的な影響を及ぼす「企業城下町」を対象として、企業城下町の研究史、国内企業城下町に関する統計分析を取り扱うとともに、宮崎県延岡市、山口県宇布市、神奈川県南足柄市の事例研究を行っています。

大企業がグローバルな生産供給体制を構築する中で、イノベーションの源泉や企業文化を再生産する、大企業の中核地域として、企業城下町を位置づけていることが示されました。企業城下町だけではなく、ロックインが働いている様々な産業地域への政策的示唆も考察しています。是非ご一読ください。



2018年度入学者実施状況

学科	入試種別	定員	志願者	受験者	合格者	実質倍率	入学者		
経済学科	推薦	全国	28	94	94	33	2.8	33	
		地域	A	29	51	51	31	1.6	31
	B								
	一般選抜	前期	A	28	42	42	28	1.5	23
		中期	B	28	272	255	55	4.6	43
			78	1287	755	260	2.9	85	
	帰国子女		2	0	0	0	-	0	
	社会人		2	0	0	0	-	0	
	外国人留学生		若干名	7	7	3	2.3	3	
	第3年次編入学		8	23	17	9	1.9	8	
国際商学科	推薦	全国	28	53	53	33	1.6	33	
		地域	A	29	43	43	30	1.4	30
	B								
	一般選抜	前期	A	28	33	32	28	1.1	23
		中期	B	28	164	156	55	2.8	41
			78	1518	756	254	3.0	98	
	帰国子女		2	0	0	0	-	0	
	社会人		2	0	0	0	-	0	
	外国人留学生		若干名	25	25	14	1.8	8	
	第3年次編入学		8	19	15	9	1.7	9	
公共マネジメント学科	推薦	全国	8	34	34	8	4.3	8	
		地域	A	8	15	15	8	1.9	8
	B								
	一般選抜	前期	A	9	11	11	9	1.2	9
		中期	B	9	44	42	19	2.2	12
			24	593	331	86	3.8	24	
	帰国子女		1	0	0	0	-	0	
	社会人		1	0	0	0	-	0	
	外国人留学生		若干名	1	1	1	1.0	1	
	第3年次編入学		4	14	13	5	2.6	4	

※推薦入学の合格者数には第2志望学科合格者を含みます。

2018年度合格者出身校

北海道	帯広柏葉、札幌月寒	広島県	安佐北、盈進、尾道北、尾道商業、尾道東、賀茂、祇園北、近畿大学附属広島(東広島校)、近畿大学附属広島(福山校)、呉三津田、呉宮原、高陽、呉港、修道、庄原格致、瀬戸田、崇徳、武田、忠海、廿日市、比治山女子、広、広島井口、広島学院、広島工業大学、広島国際学院、広島国泰寺、広島大学附属、広島文教女子大学附属、広島皆実、福山、福山誠之館、福山明王台、府中、舟入、三原、三次、安田女子、安古市
福島県	郡山	山口県	厚狭、宇部、宇部商業、小野田、華陵、下松、熊毛南、慶進、西京、サピエ儿、下関中等教育、下関商業、下関中央工業、下関西、下関南、新南陽、高水、高森、田部、長府、徳山、豊浦、西市、野田学園、梅光学院、萩、早鞆、光、響、防府、防府商工、豊北、美祿青嶺、柳井学園、山口、山口県桜ヶ丘、山口中央
茨城県	鉾田第一、水戸桜ノ牧	徳島県	阿波、池田、城東、城南、城ノ内、徳島北、徳島市立、富岡西、富岡東、脇町
神奈川県	平塚江南	香川県	大手前高松、大手前丸亀、香川誠護、観音寺第一、坂出、三本松、高松、高松桜井、高松第一、高松西、高松東
富山県	高岡第一、高岡西	愛媛県	今治北、今治西、今治東、宇和島東、大洲、西条、済美、丹原、新居浜西、新田青雲、野村、松山北、松山商業、松山東、松山南、南宇和、八幡浜
石川県	金沢西	高知県	安芸、高知追手前、高知学芸、高知西、高知丸の内、土佐、中村
福井県	高志、若狭	福岡県	育徳館、香椎、春日、香住丘、嘉穂、北九州、九州国際大学付属、九州産業大学付属九州、九州産業大学付属九州産業、近畿大学附属福岡、鞍手、久留米、小倉、小倉商業、小倉西、小倉東、小倉南、城南、新宮、精華女子、西南学院、青豊、田川、筑紫、筑紫丘、筑紫中央、築上西、伝習館、常磐、戸畑、中間、東筑紫学園、東福岡、福岡、福岡中央、福岡舞鶴、北筑、京都、宗像、門司学園
山梨県	甲斐清和	佐賀県	伊万里、鹿島、唐津東、佐賀西、武雄、致遠館、鳥栖
岐阜県	岐山、岐阜北、関、多治見、長良、美濃加茂	長崎県	志岐、諫早、大村、九州文化学園、五島、佐世保西、佐世保南、西陵、鎮西学院、長崎北、長崎南山、長崎日本大学、長崎東
静岡県	静岡学園、静岡市立、島田、清水南、桐陽、常葉大学附属橘、浜名	熊本県	熊本、熊本西、熊本マリスト学園、済々黓、第一、第二、人吉、文徳、八代清流
愛知県	愛知啓成、愛知工業大学名電、大府、大府東、岡崎東、国府、江南、五条、桜丘、新城東、知立東、東郷、豊田南、豊橋東、名古屋女子大学、西尾東、丹羽、尾北、碧南、豊丘、横須賀	大分県	安心院、宇佐、臼杵、大分雄城台、大分鶴崎、大分西、大分豊府、大分舞鶴、大分南、杵築、玖珠美山、佐伯鶴崎、高田、中津北、中津南、日田、別府翔青、別府鶴見丘
三重県	鈴鹿、津西、津東、四日市南	宮崎県	小林、高鍋、日南、日向、鵬翔、都城ケ丘、都城商業、都城西、宮崎大宮、宮崎北、宮崎西、宮崎日本大学、宮崎南
滋賀県	光泉、滋賀短期大学附属、米原	鹿児島県	出水、鹿児島、鹿児島玉龍、鹿児島中央、加治木、加世田、鹿屋、錦江湾、甲南、国分、志布志、禰南、川内、武岡台、楠華
京都府	大谷、乙訓、京都学園、京都教育大学附属、京都成章、京都橘、園部、南陽、東宇治、東山、堀川、宮津、桃山、龍谷大学付属平安	沖縄県	首里、那覇国際、宮古
大阪府	追手門学院、追手門学院大手前、大阪教育大学附属平野、大阪青凌、大阪桐蔭、河南、関西大倉、近畿大学附属、四天王寺羽曳丘、東海大学付属仰星、浪速、初芝富田林、東住吉		
兵庫県	相生、明石城西、明石西、伊川谷北、小野、柏原、加古川西、北須磨、近畿大学附属豊岡、神戸、神戸商業、神戸星城、淳心学院、須磨学園、須磨翔風、星陵、宝塚北、宝塚西、龍野、東洋大学附属姫路、豊岡、鳴尾、仁川学院、西宮(市立)、西宮(県立)、西脇、姫路飾西、姫路東、姫路南、御影、夢野台、六甲学院		
奈良県	一条		
和歌山県	開智、海南、向陽、新宮、耐久、田辺、桐蔭、日高、和歌山信愛		
鳥取県	倉吉北、倉吉西、倉吉東、鳥取西、鳥取東、八頭、米子東		
島根県	出雲、大田、松徳学院、大社、浜田、平田、益田、松江北、松江南、安来		
岡山県	岡山、岡山朝日、岡山一宮、岡山学芸館、岡山城東、岡山操山、岡山白陵、岡山芳泉、岡山南、笠岡、倉敷天城、倉敷古城池、倉敷青陵、倉敷中央、倉敷南、金光学園、西大寺、山陽女子、就実、瀬戸、総社、総社南、高梁、玉野光南、津山、新見、明誠学院		

平成30年度予算

(単位:百万円)

	区 分	金 額
収 入	運営費交付金	217
	授業料等	1,088
	入学金	120
	入学検定料等	65
	事業収入等	29
	寄付金	2
	補助金	0
	目的積立金取崩額	32
	計	1,553
支 出	一般管理費	252
	人件費	1,060
	教育経費	161
	研究経費	42
	教育支援経費(図書館)	38
	計	1,553

行事記録(平成30年3月~6月)

- 3月 6日 一般選抜(前期日程)合格発表
- 8日 一般選抜(中期日程)
- 10日 大学院選抜(2次募集)
- 21日 一般選抜(中期日程)・大学院(2次)合格発表
- 25日 卒業式
- 4月 3日 新入生プレイズメントテスト
在学学生オリエンテーション
健康診断(~6日)
- 4日 入学式
新入生保護者説明会
大学院新入生オリエンテーション
履修事前エントリー(~6日)
- 5日 新入生オリエンテーション(~6日)
- 6日 履修登録開始(~13日)
- 9日 春学期授業開始
- 26日 前期授業料納入期限
- 5月 7日 履修登録取消期間(~11日)
- 6月 1日 開学記念日

◎ご意見・ご感想をお持ちの方は、アンケートにご協力をお願いします。今後の広報活動に役立てるよう努力いたします。右記のQRコードを読み取ってからアンケートにお答えください。

https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/form/koho_mail.php



下関市立大学 オープンキャンパス2018

8/4(土) 8/5(日) 9/30(日)*
10:00~(受付9:30~)

- ★参加者全員にオリジナルグッズプレゼント!!
- ★無料ランチ券配付(8月のみ)

【全体説明】

- 大学概要:本学の特色などを紹介します。
- 入試説明:今年度入試の概況、来年度入試について説明します。
- 就職状況:就職状況やサポート体制を解説します。

【模擬講義】

本学の教員が、高校生の皆さんに日頃の授業をわかりやすく講義します。

【語学体験】

英語・中国語・朝鮮語の初歩的なレッスンなどを行います。

【小論文対策講座】

本学の小論文試験の傾向と対策について講義します。

【個別相談】

入試や大学生活、就職など、いろいろな疑問に教職員がお答えします。

【市大生と語ろう】

授業やサークル、アルバイトなど、在学生の生の声が聞けます。

【学内施設ツアー】

学生とおしゃべりをしながら、学内を散策します。

【学生食堂】無料ランチ(8月のみ)

学食の人気メニューが味わえます。

※9月30日はプログラムの内容が異なります。詳細はHPをご覧ください。

■無料送迎バス運行(8月のみ)

最寄駅(JR幡生駅・新下関駅東口)から運行。



模擬講義



個別相談



学内
施設ツアー



学生食堂